

大谷教師塾



教職支援センターだより
「大谷教師塾」は本学
ホームページにも掲載を
予定しております。

「教員を目指すという意識と自覚」

副センター長 岩淵 信明

教員を目指す者は目標に向かって努力する姿勢が大切です。

新聞が、「厚生労働省が、2009年度の児童虐待相談対応件数を発表した」と伝えていました。その数は年々増加の一途をたどり、過去最多を更新したとのこと。また、生活保護の受給者・世帯数の増加も報道されています。

こんな報道を目にして、教員を目指す皆さんは何を考えますか。

学校のことででもないし特にかかわりはないと考える人、全く意識にも留めない人、何か教育に関係しただけれどもそのままにしている人、そんな人が少なくないでしょう。

どうして児童虐待が増えているのでしょうか。子育てや家庭は大丈夫なのでしょう。家庭の経済状況は子どもの教育にどんな影響を与えるのでしょうか。

家庭や社会の状況は、子どもの実態や幼稚園・学校教育に対して様々な影響を及ぼします。

一方で、本年度行われた全国学力・学習状況調査の都道府県別の結果が報道されていました。また、昨年度の小・中学校の不登校児童生徒数調査の速報値も公表されています。

これらの情報から、最近の教育の状況がわかってきます。

教育の理念や歴史、教科の指導法などを学びながら、その一方で、今日の教育の現状はどうか、常に状況把握に努めなければなりません。

子どもの実態をしっかりと見つめることから教育は始まります。子どもを理解しようと思えば、その子どもの置かれている状況、環境を理解しなければなりません。親の置かれている状況も理解する必要があります。子どもの実態や家庭の現状をいろいろな視点から把握し、理解しないことには、子どもを大切にしたい教育活動は進められないのです。

「今日の教育課題は何だと思えますか」と問われることがあります。それに対して型どおりの答えを返したところで、その先、教員として何をどうすればいいですかと問われたら、確かな考えを述べることはできません。

5月の新聞紙面で「新聞やテレビのニュースに関心があったり、学校への持ち物を毎日確かめたりしている小学生ほど学力が高い。そんな傾向が、昨年度の全国学力テストの結果分析から浮かび上がった。」という記事が目にとまりました。

これを読みかえると、「教育に関する情報に関心があり、自分が何をしなければならぬかをしっかりと考えて努力している人ほど、教員に必要な力量を身につけることができる」ということになるのではないのでしょうか。



■ みなさんに伝えたいことは山ほどあります (2)

教職アドバイザー 細谷 徹一・西寺 正

ある人は笑顔で『よかった!』と来室。
ある人は『残念!もっとやっておけば!』と悔しがる。
教員採用選考試験(一次)の発表を迎えた諸君の姿は一喜一憂だ。教師になるための道案内役である私たち教職アドバイザーへの結果の報告や今後の具体的な相談も真剣そのもの。
そこで、教職を目指すすべての諸君にお願いがある。
なるべく早めに『教職支援センター』に来室し本室の利用(図書閲覧や自習など)や私たち教職アドバイザーなどの活用(履修やボランティアなどあらゆる相談活動)や存在を知ってもらいたいと願う。その他、教職に関する相談はどのようなことでも大歓迎なので遠慮することなく立ち寄ってほしい。
『みなさんに伝えたいことが山ほどあります』。



採用情報やボランティア情報などが満載されている教職支援センター付近の掲示板

目次:

「教員を目指すという意識と自覚」 1

伝えたいことは山ほどあります(2) 1

一歩ずつ教師になるための道のりを歩んでいきたい 2

教師を目指す仲間との出会いは 2

教師という仕事のやりがいを感じることができた3週間 3

教室探訪 3

これからの予定 3

受験に対応した内容・個々への親身なアドバイス 4

教育名言コーナー 4

読書案内 4

一歩ずつ教師になるための道のりを歩んでいきたい

— 学生ボランティア体験 —

歴史学科 第2学年 樋口淳平

■ 洛友中学校とは ■

・洛友中は樋口君が述べるように学齢を超えた（多くは高齢の）生徒が学ぶ公立の学び舎（夜間中学）である。
 ・しかしまた、洛風中学校のように不登校を経験し克服しようとする学齢期の中学生が学び直そうと京都市全域から通う新たな教育課程をもつ公立の中学である。



・洛友中学校は郁文中学校など下京区の5つの中学校が統合され下京中学校が新設されるのに伴い旧郁文中学の校舎を活用し4年前に開校された。
 （写真は洛友中校舎正門）

私は今年4月から、学生ボランティアとして、夕方から夜間にかけて京都市立洛友中学校で授業補助をしています。

週に2回の体験ですが、自分にとって教師になるという思いを一段と強くしてくれました。また、教育の現場の空気を感じたり、先生方や生徒さんとの会話や、やりとりは貴重な経験になっています。

私が、初めて洛友中学校に行った時、驚いたことは、学ばれている生徒さんの多くは自分よりも年齢が高いということ、日本語のほかに、中国語や韓国語が飛び交っていることでした。

洛友中夜間部の生徒さんは、戦後、家庭の事情や様々な理由で当時、中学校での義務教育を受けられなかった方々や在日韓国・朝鮮の方、また、第二次世界大戦により中国に置き去りにされた中国残留孤児ゆかりの人々や中国人の方がおられ、初めは、どのように接してよいのかわかりませんでした。時間が経つにつれ生徒さんから積極的に話しかけてもらったりと徐々に慣れ、最近では、教室へ入った途端、「先生、こっちから見て！」「先生、この問題が分からないので教えてください。はる？」という生徒さんからの要求がくるようになっていきます。

いつも授業が終わり、帰路、夜空を見ながら、ふと考えると、こんな自分でも先生として見られている、頼りにされているんだと思うと、嬉しさと喜びで胸一杯になります。

また、生徒さん達は、「学びたい」という意気込みが非常に強く、今まで思うようにできなかった勉強に懸命に取り組んでいます。

そんな懸命な姿をみて、少しでも勉強がはかどる様に、微力ながらサポートできるように頑張りたいと思います。

私は、学生ボランティアとして洛友中学校に行くことで、多くの経験させていただいています。これからも、自分がまだ経験したことがない経験が待っていると思うと非常に楽しみです。

まだまだ学ぶべきことは、たくさんあり、大変だと思いますが決して諦めることなく、一歩ずつ教師になるための道のりを歩んでいきたいと思えます。

最後になりましたが学生ボランティアとして温かく迎えてくださる洛友中学校の先生方、これからもご指導の程よろしくお願ひいたします。

（教育・心理学科 第2学年
 松下浩子さんも同じく洛友中学校で
 学生ボランティアとして活躍してく
 れています。）



教師を目指す仲間との出会い

— 「京都教師塾」で学んだこと —

文学科 第4学年 小倉明花



10日間の教育現場実地研修「学校の1日」は、教育実習とは違った大変貴重な体験になりました。

私は、第4期生として京都教師塾に入塾しました。すでに卒塾しましたが、私が感じたことなどを紹介させていただきます。

まず、教師塾の内容を簡単に説明します。塾生全員で講義や実践報告、パネルディスカッションを聞き、そして5、6人のグループになり、講義等の内容から「学んだこと」「今、自分が教育現場で実践してみたいこと」「教員をめざす中で、今不安に感じていること」という3つの視点で話し合いをします。単なる感想や意見の交流ではなく、学びとったことを中心にして話し合いを進めていきます。この3つの視点は毎回同じです。また、学校のようにクラス分けがあり各クラスには、担任にあたるアドバイザーの先生がおられます。

私は、このグループでの話し合いは毎回楽しみにしていました。講義等を聴き、自分の意見をもつことは簡単なことだと思いますが、同じ志をもち、様々な考えをもった仲間との話し合いは、とてもすばらしい機会であったと強く感じます。

講義だけではなく、実際に学校現場にも10日間行かせてもらいました。私は、この10日間を通して講義では決して学べない多くのことや、教師の日常的な仕事のすべてを知ることができ、教師という職業への魅力が今までよりも増しました。

私は、教師塾に入ることに、すごく迷っていたのですが入塾して本当によかったと思っています。簡単に感じたことを述べましたが、ここには書ききれないことがたくさんありました。

皆さんも是非、京都教師塾に入って教育に対する「厳しさ」や「喜び」を体感してほしいと思います。



第4期 京都教師塾「入塾式」

教師という仕事のやりがいを肌で感じる事ができた3週間 —教育実習を終えて— 歴史学科 第4学年 廣岡佑紀

1 母校での実習

私は、3週間の教育実習を母校、神戸国際大学附属高等学校で行いました。私が卒業し4年経っていたのですが心配していた緊張も少なく授業に入ることができました。

2年の世界史Bを中心に教えることになったのですが授業参観しているうちに同じ年の子たちが集まっているという学習環境でも、クラスにより雰囲気は全く異なる「個性」と呼べるものがあると肌で感じました。

実習の初め、生徒が授業中よく喋るクラスがいざ、私が授業にそのクラスを訪れると遅刻したり私語する生徒もなくチャイムと同時にすぐ授業を始めることが出来ました。これは、私の在学時の生徒の様子と大きく違って生徒の実習生の私への協力的な態度に非常に感心しました。

担当した2年は、附属の大学や推薦などの大学進学クラスと、さらにレベルの高い大学を目指す子が集まる学級などでした。また、ある学級は大半の生徒が運動部所属で試合日は公欠という形で試合に出るなど生徒や学校の色々な様子や先生のご苦労が大変よくわかる実習期間でした。

2 実習中の私の生活と取組

実習中の私は、朝7時45分に学校着。出席簿に押印。8時20分からの職員室の朝礼後すぐ、指導教官に代わりクラスに行き出欠の確認や健康観察などをしました。そして、授業のないときは他の先生の授業を参観して勉強しました。それ以外は教材研究を常にしていました。

母校では、実習生の拘束時間が朝の8時20分～16時20分と決まっています。放課後は遅くまで残れませんので帰宅後、夜遅くまで次の授業の指導案作りと教材研究をしました。高校時代、部活動をしていなかった私は、実習中に部活動に関わる機会がありませんでした。その為、生徒とのコミュニケーションが少なかったと思います。

3 生徒とのコミュニケーションのきっかけづくり

生徒とのコミュニケーションは大切なものだと感じていたので、次の方法を考え出しました。それは、私の授業時に授業用ノートを配布し、最後に感想なり私へのコメントを書いてもらうようにして、それに私が一言コメントを加

て返すという実践をしました。その結果、私のコメントに対して授業が終わったときや、放課後に生徒が色々話してくれるようになりました。また、授業中の生徒の発言もしっかりと聞くようにして、授業を通して生徒との信頼を少しでも築けるように心がけました。しかし、指導案作りの点においてはまだまだな部分もあったので、今後も研鑽したいと思います。

4 教師志望を確かなものにした3週間

実習は、3週間という長いようで短期間です。その中で、事前指導で習ったことを実践するというのは極めて難しく、ただただ納得するだけの連続でした。

しかし、実習を通して少しずつ気持ちに余裕が出来ればきつと上述の私の「授業ノート」の実践のように可能だと思います。例えば、実習前にボランティアで学校に行き、事前に生徒と接する機会があればより実習が深いものになったと感じました。この点は、ボランティアをしとけばよかったと反省しています。また私は実習開始2日目でくじけそうになり、あきらめそうになったりもしましたが、教師という仕事のやりがいを肌で感じ、知ることが出来たので、これからも教師を志していきたいと思います。

最後に、3週間我慢した後のタバコは、格別の味とともに少し苦味のあるものでした。🍊

教室探訪

力作が並ぶ5号館図画工作室



大谷幼稚園芋掘りボランティアの様子



たくさんお芋掘れるかな？



パネルシアター夏期講習の様子



下書き

高橋先生の指導のもと、来年の実習へ向けた準備の一環！



切り抜き



色付け

あとは上手にできるように練習あるのみ！！

■ 受験に対応した内容・個々への親身なアドバイス

— 教員受験直前講習に参加して —

歴史学科 第4学年 牧井 美帆

教員採用選考試験の対策として「教員受験直前講習」を受講させていただき、教員採用選考試験に向けて4月、7月にわたって多くのことを学びました。内容としては、自己アピール、論作文、模擬授業、指導案作成、個人面接、集団討議を行い、中でも自己アピール、論作文については、どのような所がポイントであるのか、繰り返しテーマを決めて書くことで自分の自信にもつながりました。また、各教科ごとに分かれての模擬授業では、短い間で考え構成を練り発表し合うことで自分の改善点、生かせる点を知り授業でする模擬授業とはまた違う緊張感の中で行うことができました。さらに、最後の本番直前の面接は本番さながらの雰囲気と場面設定の中で個人、集団どちらも練習を重ね、何度もアドバイスを受けながら行いました。

全体を通して、教職にかかわるすべての先生方の協力のもと直前講習をしていただき、受講生一人一人にどんな小さなことでも親身にアドバイスしていただきました。初めての教員採用試験ということもあり私も含め受講生も不安や悩みもありましたが、7回にわたる直前講習



教員受験直前講習「模擬授業」



教材・指導資料など

習を共に受ける中で「教師になりたい」という気持ちをさらに強めることができました。そのことで、みんなと同じ目標に向かって頑張っているという連帯感や自覚を身をもって感じる事ができ、それぞれの資質向上になりました。

最後に、この直前講習を受けたことは本番においても決して無駄にはなりません。貴重な時間をさいていただいた先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

◆ 教育名言コーナー ◆

脳の「よろこび」

「人間の脳が一番『よろこぶ』ときは人のためになったのだ、ということを実感できた時だ」

脳科学者 茂木健一郎

教育実習やボランティアなどで児童・生徒との有意義な関わりを体験し「よろこび」を実感した皆さんはこの茂木健一郎氏の言葉が素直に納得できるのではないのでしょうか？

教職支援センターではこれら『大谷教師塾』などを通じ、諸君のさらなる「よろこび」の声や表情を実現するお手伝いを続けています。

(西寺)

■ 読書案内

歴史学科 第3学年 村先 啓吾

「子ども集団を動かす魔法のワザ！」

すぎぶち てつよし
杉淵 鐵良 著

教師になったら、児童・生徒集団を動かす力が必要になります。場合によっては、担当する学級集団の先頭に立ち、子どもたちを引っ張っていかねばなりません。そのためには指導力や工夫(ワザ)が必要になります。

私は現在小学校で学級担任補助としてボランティアをさせてもらっています。学級担任はとても大変だと思います。児童一人ひとりの実態や課題を踏まえなければならないし、学級集団全体をまとめ上げなければなりません。そして、学級の雰囲気をよくして、学習しやすい環境にしなければなりません。どんなによい指導方針をもち、学習指導案が作れたとしても、集団をまとめる力がなければ、学級担任としては不十分です。しかし、この本に書かれていることを意識して行ってみると、難しく考えていたことが見えてくるように思います。

私がこの本を読んで一番印象に残ったところは、「先生とは、まず生き生き(活き活き)する人です」と記されている部分です。教師自身に元気がなかったり、やる気がなかったりすれば、それらが子どもたちにすぐに伝わり、クラスの雰囲気は悪くなります。子どもの意識を変え、

子ども集団を活性化するためには、指導者としてどのように子どもに働きかけるとよいか。この本は大変参考になります。皆さんに読んでもらいたい、私が薦める指導書です。



学陽書房